

1 はじめに

伊達市では令和3年度より、市内の全児童生徒と教職員に一人一台端末 Chromebook が配付された。既存のソフト以外に、全端末に「学びポケット」が導入されており、schoolTakt などを活用した実践も進められている。今回は担任をしている1年生に向けて、どのように操作機器の指導を行ってきたのか、具体的な使用場面を紹介していきたい。

2 1年生のICT活用

(1) 5月初め

正しい操作や知識が身に付くように、初めは言葉の指導を行った。端末を家に例えて、「パスワード」は家を開ける鍵だから、人に教えたり無くしたりしないように大切にすること、「ログイン」は家に入るという意味であること等のICTの用語を説明した。学年が上がっても困らないように、ICTに関する用語はなるべくそのまま使うように心掛けた。(ランチャー・URL・ログアウトなど)

(2) 5月中旬

基本操作のスキル向上や端末に慣れ親しむことをねらいとして、初めは「Jamboard」「schoolTakt」を活用し、お絵かきや字を書く活動をした。制限は最低限(ログアウトボタンを押さないようにする等)にして、たくさんの操作をしていく中でスキルを身に付けさせた。操作をしていく中で、色を変える子や図形を入れる子が現れ、操作の仕方を子供たち同士で確認させた。制限しすぎないことでICT機器をより身近に感じ、慣れ親しむ子が増えた。

(3) 6月～7月ごろ

基本操作にも慣れ始め、Jamboard や schoolTakt での操作もスムーズにできるようになった。自分たちで指定されたソフトを開くことができ、授業内でも活用ができるようになってきた。この時期は絵に丸をしたり、動かしたりする操作を中心とした活用が多かった。すぐに訂正でき、試行錯誤する学習には効果的であった。Google フォームや Google スライドで作成したテストや資料を Classroom に添付し、子供たちに開かせるようにした。



(5月ごろの様子)

授業の最後の振り返りは文字ではなく絵で行った。



(6月ごろの様子)

善悪の判断について、色を分けながら印をつけて交流した。

たん や ● をつかって すきな りずむを
つくって みましょう

たん



たん



たん

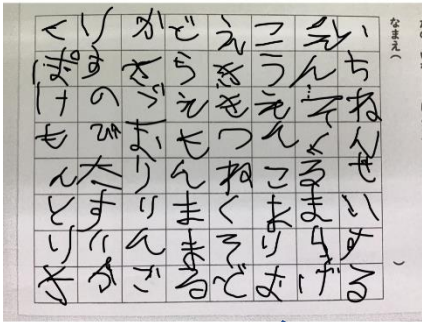


(6月ごろの様子)

試行錯誤させてオリジナルのリズムを作った。

(4) 8月～9月ごろ

文字を書き込むことができるようになり、算数の問題作りや国語の問題作りなどに取り組んだ。自分の考えやオリジナルの問題を見合う時には、立ち歩かずに交流できるため、ICT を効果的に活用できると感じた。習熟時には、まなびポケットにある eboard の URL を添付し、算数の問題に取り組ませた。早く終わった時にドリルや巻末の問題に取り組むのと同じように ICT を活用した。図工では、写生会のモデルとなるザリガニの写真を複数枚配付して下書きをした。拡大したり、自分の好きな向きを選べたりするので、ICT の良さを生かすことができた。



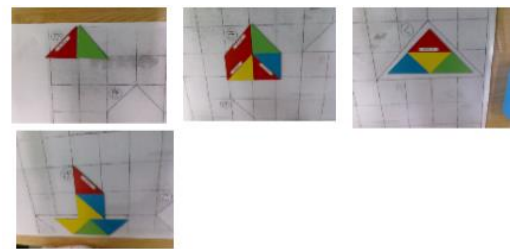
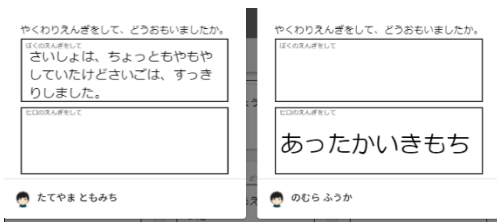
(8月ごろの様子)
schoolTakt を使って問題を出し合った。

(9月ごろの様子)
写真を複数提示し、自分で好きなものを選ばせる。

(7～8月ごろの様子)
eboard の問題に取り組む。

(5) 10月～現在

今後 Jamboard の付箋機能等を効果的に活用できるよう、手書き文字入力の指導をした。週に1回朝の時間に練習すると、学級の半数の子供たちができるようになってきている。国語の図鑑づくりでは、資料を複数配付し、自分の必要な情報を集めさせた。図書室にある本には書き込みはできないが、色分けして書き込みをすることができ、視覚的に理解するのに効果があった。算数の図形の学習では写真機能を使い、作った形を写真に撮ることで、本来崩してしまう形も記録として残すことができた。



(11月ごろの様子)
手書き文字入力をしている子もいる。

(10月ごろの様子)
schoolTakt で印をつける。

(11月ごろの様子)
記録用に写真機能を使う。

3 実践を振り返って

1年生に ICT の活用がどこまでできるのか、初めは戸惑うこともあった。しかし、1年生だからと言って躊躇するのではなく、様々な操作や機能に触れさせることで、1年生でも十分使えることがわかった。また、繰り返し使っていくことで操作にも慣れ、ノートを開くのと同じように Chromebook を開いて活用できるようになっている。ただ、それと同時に、その学習の内容に適した ICT の活用になっているのかを考える必要がある。使うことが目的にならないよう、身に付けさせたい力と ICT の利点を組み合わせながら実践を続けていきたい。